

# 春の革命

## ——ミャンマーからの手記

2021年2月1日、朝起きたらインターネット回線・電波が入らなくなっていた。しばらく閉じていなかったせいかと思いい、カバールの破損を確認するために5回開閉する。そうこうしているうちに、8時か9時頃、「クーデター」が起きたことを知る。聞いた瞬間泣きたくなかった。私たちは軍がクーデターを起こすはずがないと思っていた。まったく思わぬことが起きたのだ。最初は信じられなかった。

ミン・アウン・フライン将軍たちは2019年からクーデターの準備をしていたと、後から知る。私の、そしてビルマの人々の人生は終わった。もう誰を信じていいのかわからない。私たちの指導者であるアウン・サン・スー・チーと他の何人かの指導者が軍に逮捕された。数日後、インターネットでニュースを再び見ることはできたが、しかしリーダーがいらない現在、人々は皆、何をすべきか分からなかった。そして、リーダーは今もまだいない。

## 独裁に反対する一人のビルマ人

軍関係者を除いて、残りの国民はみな悲しみに暮れていた。さまざまな噂が飛びかったが、人々は抗議もせず、暴動を起こしたりもしなかった。10日ほど経って、国際社会からは誰も助けに来ないという噂を人々が信じるようになった。マンレイ、ヤンゴンのような大都市の街頭で抗議が始まり、それから少しずつ町村ごとに広がり、やがて全国的なパブリックストライキになった。大都市の通りは人でいっぱい埋め尽くされた。最初、私たちは警告され、捕まったりしたが……抗議行動への警察と兵士の対応はきわめて柔軟だった。その後、2021年3月頃から彼らは銃で人々を撃ち始めた。1、2人の兵士が撃ってきたが、人々は恐れなかった。彼らは再び撃ってきたが、人々はまだ恐れていなかった。

その後、軍は人々を恐れさせるためさらに残忍な行動を取り始めた。彼らは狙撃兵で抗議者を撃ち始めたのだ。ヤンゴンでは、

手榴弾を使ってデモ隊を鎮圧した。ヤンゴンだけで、軍は100人近くの人々を殺した……さらにバゴ・マンダレーなどの都会でも多くの人々が殺された。警察や兵士は気に入らなければ逮捕し、拷問し、酷く虐めて死んでも責任を取らなかった。

その後抗議行動はとても静かになった。Z世代の多くの若者たちが逮捕されないようにした。彼らは武器でこの軍隊へ反撃することに気づいたのだ（注：現地では「春の革命」と言われている）。みんな十分に理解した、軍がどんなに残酷か……。反政府活動の疑いをもたれた市民が夜に逮捕されると、翌朝家族に死体を取りに来いと言う。数人の何の罪もない人々がこのような酷い殺され方をした。さらに、息子が見つからない場合は、父親、母親、子どもなど家族を逮捕する。軍隊は反対する者を残忍に抑圧する。だから若者のほとんどは逃げ出した。森に入り、民族武装集団から逃れ、軍事訓練を受けた。こうして、反政府活動はより強くなった。しかし軍隊はそれを望んでいない。反政府活動を助けた人は誰でも逮捕され、殺され、家と財産は没収された（注：国軍の軍事資金は国民から没収したものだと言われている）。

反政府活動は様々な形で抑圧された。一般市民たちが反政府活動を支えないように国軍はさらに酷い手段で抑圧してきた。街では何百人もの犯罪者と囚人が刑務所から故意に釈放された。そのせいで、毎日のように窃盗・強盗・拉致が頻繁になり、殺人などの犯罪も増えてきた。だが警察は何もしなかった。人々はもはや安全ではない。人々を保護するための集まりも開かれなかった。夜の6時以降、人々はあえて外出しない。刑務所から解放された犯罪者たちは逮捕されても、すぐに釈放された。警察は主に政治活動家を逮捕している。活動家は逮捕されると重い実刑判決を受ける。若者たちが銃を持つ反政府活動は、海外で働くビルマ人や、日本、韓国などの民衆の支援と援助によりさらに強くなっていった。

地元の人々の多くは、日常生活に不安を抱いている。商品、燃料などは、政治が不安定なのですべての価格が上昇し、人々の暮らしはもはや快適ではない。国軍を嫌う数人の金持ちも反政府活動を手伝うと、軍に逮捕されて投獄される。そのため軍事クーデターに反対して逃げる人が多くなってきた。国軍が村々を燃やした（彼らはわざとそれを行う）ため、戦闘から逃れた何十万もの避難民がいる。国軍は、国民が普通の生

活を送って国も落ち着いていると世界を騙すため、さまざまな公の祝賀会を開催したが、しかしそれは成功しなかった。国家統一政府（NUG: National Union Government の略称）の努力により、国際社会はミャンマー軍の残虐行為と暴力に気付くようになった。ASEANも国軍を追い出すようになった。

国際社会はミャンマー軍にさまざまな圧力をかけた。国際社会はアウン・サン・スーチーに会いたいと、軍に彼女を釈放するよう何度も頼んだが、何も起こらなかった。軍隊はあきらめず、さらに残酷になった。軍隊が負ければ、すべての将軍が投獄され殺され、すべての財産が没収される。軍隊は優位に立つために、より攻撃的かつ暴力的になった。

国軍は村に人民防衛隊（PDF）がいるという口実で毎日村を焼き払っている。罪のない村人が逮捕され、酷く殺されている。地上戦で勝てなければ飛行機で爆撃。国軍のせいで子供も大人も毎日死んでいる。しかし、反政府活動は弱まらなかった。人々は軍隊をもっと嫌う。一切受け付けない。彼らは最後まで戦うことにした。現在もミャンマー各地で戦闘が毎日行なわれ、そのために避難民の数はますます増えている。

る。避難民には助けが必要だ。彼らの生活は安全ではない。国際的な実務支援は非常に弱い。



反政府軍の手製の銃—Tumi。パイプなどで作製（写真提供：筆者）

また、各地で国軍と戦っている反政府活動家たちも多くの支援を必要としている。最初、彼らは手製の銃、Tumi（100年以上前から伝わるチン族の狩猟用のライフル）で戦っていた。射程も短い（15〜30メートル）ので、彼らは軍の前線を正面から攻撃することができない。地雷もあるため、軍の来る道路の左右に隠れ、敵が近づいたら撃って逃げるようにした。彼らは本当に哀れだ。戦っても攻撃力が弱いので、軍に負けると彼らは残酷に殺される。死ぬまで拷問され、斬首される。一部の村では、インターネットが遮断され、国軍はテロリストのように悪辣で残虐な行為をやりたいた題行なう。軍隊は村人のお金を略奪し、女性をレイプし虐待して殺した。兵士が村に入ったら、村人はすぐに逃げて行かないと

いけない。走れず逃げられなかった老人は殺された。

ミャンマー国軍は最近、ほとんどの戦いに負けている。彼らは全国の戦闘地域で毎日20〜100人くらい死んでいる。国民全



員が反政府側に立っているのです、反政府軍の士気は高い。国軍の士気は弱くなってきた。人々は彼らを死ぬほど嫌う。NUG政府は、2023年に軍事力を強化すると発表した。今後、戦闘は全国に広がり、大きな内戦に発展する可能性がある。

国はもつと減じるだろう。電気が来ないので1日8時間から12時間しか点灯しない。国際的な投資会社も保証がなくなったためミャンマーを離れた。人々の仕事も減り収入も減った。元々貧しかった国民はさらに貧しくなった。収入が減ったのに商品の価格が指数関数的に上昇し、もはやそれを買う余裕もない。飢えに苦しむ人々には、反政府活動への関心を失い、もはやサポート出来なくなった。

それらはすべて国軍が故意に行なったことなのだ。戦争や政治的理由から逃れる人々はますます苦しい状況に陥っている。国内でのサポートが弱まり、彼らは海外からの支援を期待している。

ミャンマーの内政・政治は非常に複雑だ。ロヒンギャ問題もまだ解決出来ていない。多くの民族武装集団が存在する（ミャンマー軍を支持する民主軍もいる）。彼らは国軍と協力して、国境地域で麻薬、ギャンブル、犯罪ビジネスを運営している。国民がどんなに困っても国軍は何も考えていない。彼ら

は私利私欲だけでずっとやっている。

この革命（春の革命）は、今年の終わるか来年に成功すると予想されている。その間、どのような困難に直面するかは誰にもわからない。一日も早く平和な日々が戻ってくることをみんなが願っている。「困難さ」の主な理由は、十分な武器がないことだ。武器を持つていけばほとんどの人が戦う。多くの親が軍事クーデターで子供を失い、多くの子どもたちが父と母を失ったために孤児になった。ミャンマー国軍の残虐行為について言えば、書ききれないことがまだまだ沢山ある。Covidの第3波では、国軍のせいで何千人もの人々が亡くなった。ミャンマーの一日も早い平和と安定、そして人々の暮らしが通常の生活に戻ること祈っている。

（ミャンマー・ヤンゴン在住）

\*本記事はミャンマーに在住する一人のビルマ人から送られてきた手記を翻訳（ビルマ語→日本語）したものです。なお、筆者の安全のために匿名で掲載しました。

（共訳：M、細井明美）